

プロジェクト課題活動実績（令和7年度）

課 題 名：大道地域の持続可能な営農体制の構築

所 属 名：山口農林水産事務所農業部

チーム員：宇佐川恵、杉田麻衣子、坂倉紀美子、西尾友佑、稲葉晋子、中村早紀

<活動事例の要旨>

防府市西部の大道地域において、担い手の高齢化等による不作付地発生を防止し、持続可能な営農体制の構築を目指すため、新たな担い手となる（株）Fの組織体制強化等を支援した。

1 普及活動の課題・目標

防府市大道地域では、3つの集落営農法人と、この3つの集落営農法人を含めた連合体が設立されており、各地区で営農が実施されている。

また、集落営農法人が設立されていない地区では、個人の認定農業者等が地区の営農を担っているものの、担い手の高齢化等による不作付地の発生が懸念されており、新たな担い手の育成が急務となっている。

そこで、大道地域の連合体である（株）Fが各地区の新たな担い手となれるよう組織体制等の強化を進める。

具体的には、新規就業者が安心して働け、やりがいを実感できる環境整備を図ることと定着支援を行うこととし、経営の柱である水稻については、乾田直播栽培技術の向上と営農計画作成を支援することで経営改善を図る。

さらに、タマネギについては、簡易調整加工用出荷の作型分散にむけた品種選定と法人間作業連携の体制整備により、安定生産を図る。

2 普及活動の内容

（1）新規就業者の定着

令和7年4月に入社した新規就業者の円滑な受け入れに向け、入社式の開催支援を行うとともに、経営方針、社内ルール、新入社員育成計画等の素案を作成し、支援体制の整備を推進した。

あわせて、代表との協議を通じて社員会議開催の方向性を整理し、社員会議においては、経営理念や役割分担の共有、作業進捗状況の確認、競合する秋作業に対応した作業分散の検討を実施した。

さらに、KSAS 入力情報と実際の作業内容の突合による業務の見える化を進めるとともに、現状及び課題、将来目標を整理し、ロードマップ作成についても支援した。

加えて、新入社員及び中堅社員の育成を進めるため、定期的な研修計画の提案や社員の意向把握に向けた取組を実施した。



（株）F 入社式

（2）労務管理等改善

経営改善に向け、無理・無駄の排除を目的として、トヨタ式カイゼン等を活用した労務管理改善を支援した。具体的には、作業記録の分析・活用支援及び作業スケジュール管理の提案に取り組んだ。

また、農業機械の取り扱いに関して、標準化・効率化・作業安全確保の観点から機械作業標準書の作成を支援した。

さらに、水稻・小麦・タマネギの収量向上を目的として、栽培管理支援システムを活用した適正な農薬・肥料施用の支援に取り組んだ。

(3) 水稻省力低コスト化

乾田直播栽培技術の向上に向けて、栽培開始前の4月下旬に、除草剤散布体系の確認と指導をJA、農薬メーカーと共に実質的な栽培管理者である法人代表に対して行った。播種後は概ね10日おきにJA等とほ場巡回を行い、発生状況に応じた雑草管理指導を随時行った。

本年の乾田直播栽培を行う予定のほ場は小麦後ほ場で、小麦の収穫期に降雨が続いたことにより収穫が遅れ、播種作業も遅れる懸念が生じたことから、生育量を確保するために一部ほ場の移植栽培への切り替えを提案した。

さらに、栽培管理支援システムの運用を支援し、それを基にした病虫害防除指導を行った。

加えて、社員の技術向上を目的に、水稻栽培全般に関する技術指導を社内研修で体系的に行い、併せて、経営実績の取りまとめ、次年度に向けた直播栽培面積並びに栽培管理の検討を行った。

(4) タマネギの生産安定

令和7年産は春先からの低温により生育が遅れ、作型の前進化は確認できなかったが、傷みや凹みの出にくい品種を選定し、令和8年産に向けて栽培を開始するとともに、新たな品種を加えて生育及び品質を確認中である。

(株)Fと(農)Kは、育苗とほ場の機械作業で連携してきた。新たに(農)Sも加わり、3法人が隣接するほ場で共同栽培を開始することとなったため、各法人が栽培全体を理解し、相互に連携して計画的かつ確実に生産することで、高単収・高収益を目指す生産体制の整備を支援した。

また、機械作業は(株)Fが行うため、機械作業料金の整理を支援し、共同で行う定植、収穫作業においては、作業計画と人員配置計画を立てるよう誘導した。

さらに、適期管理を実施するため、各法人の担当者が参加する月1回の生育確認の場を設定し、生産対策や作業準備にいかすこととした。その際、(株)F若手職員による生育調査を実施し、技術研鑽を図ることとした。

3 普及活動の成果

(1) 新規就業者の定着

新規就業者の受入れ体制が整備され、入社式の実施や社内ルール・育成計画の整理により、就業環境の基盤が構築された。

あわせて、社員会議の開催を通じて経営理念や役割分担の共有、作業進捗の見える化が進み、将来を見据えたロードマップ及び研修・人事評価体制整備に向けた方向性が明確化された。

(2) 労務管理等改善

KSASを活用して作業記録を蓄積し、社員会議において振り返りを行った結果、従業員の作業上の問題点の理解が進んだ。

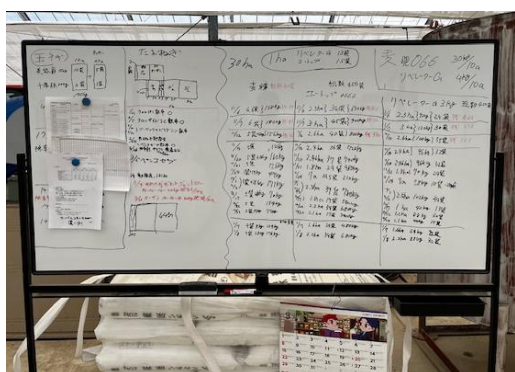
また、中長期的な作業スケジュールをホワイトボードで共有する体制を整備したこ

とにより、作業方針の見える化が図られ、日々の作業進捗や資材使用状況を確認しながら計画的に作業が実施されるようになった。

さらに、情報共有および2S（整理・整頓）に関する指導を行った結果、作業時の不具合情報や資材管理の徹底が進み、社内における情報伝達の円滑化と廃棄物の適切な分別が定着した。

なお、スリップローラーシーダ及び3点ヒッチの機械作業標準書の作成により、新入社員の機械作業に対する理解が進み、作業手順の遵守が徹底されることで、作業時の安全確保と事故防止につながった。

また、栽培管理支援システムに記録された過去の農薬・肥料の施用時期・施用量をもとに栽培管理の見直しを行うことで、水稻及び小麦栽培の改善点を把握できた。



中長期的な作業スケジュールの見える化



栽培管理支援システムを活用した
作業記録の蓄積

(3) 水稻省力低コスト化

JA、農薬メーカーと共に除草剤散布体系の確認と指導を法人代表に行い、体系処理の意味については理解されたものの、社員研修の実施や労務管理が優先され、体系処理が行えないほ場が一部で発生した。本年の乾田直播栽培での単収は前年より増加したものの概ね340kg/10aとなり、直播導入面積の一部で収穫時に中程度以上の雑草害発生が確認された。

麦の収穫遅れにより、播種作業が遅れることから、乾田直播栽培を予定したほ場の17%が7月上旬移植の移植栽培に変更され、「にこまる」の単収は469kg/10aで、直播栽培を含む「つきすずか」のロール数は前年より増加して6.5個/10aとなり、作期遅れによる減収は軽減された。

社員研修では、本年産の水稻の経営実績を取りまとめ、低単収と雑草対策が令和8年度で優先して解決すべき課題であることを提示したうえで、水稻栽培に関する講習を行った。これにより、社員間で課題が共有され、認識が深まった。また、代表との協議を通じて、令和8年度及び令和9年度以後の直播栽培面積と栽培管理に関する営農計画の検討につながった。

(4) タマネギ生産安定

加工業者向け出荷に適応した早生品種を導入することで、収穫時期の前進化による機械作業の効率的な利用がすすみ、水稻及び麦作との作業競合の緩和につながることが期待される。

また、3法人による共同栽培が始まり、生産体制を整備することで、責任体制の明確化が図られるとともに、高齢化が進む法人でもタマネギ栽培を継続することが可能となった。

さらに、月1回の生育確認と技術研鑽により、(株)Fに栽培管理を任せるのではなく、各法人が同一目線で生育状況に応じた適切な施肥や防除作業が必要なことが再認識され、マニュアルどおりの管理から高単収に向けた適期栽培管理へのステップアップにつながった。

4 今後の普及活動に向けて

会社は若手社員2名と社長の3人体制であり、組織としての体制は引き続き脆弱であることから、若手社員研修による社員のスキルアップや経営改善を提案し、会社の基盤づくりを伴走支援していく。

また、水稻及び麦作については低単収や作業遅れなどの課題があることから、低コスト化と収益確保のバランスがとれた経営となるよう支援していくとともに、タマネギについては、法人間連携による生産体制が継続し定着するよう支援していく。